

# 104-254

## 問題文

前問で適切と考えられた術後治療に使用される薬物の作用機序に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

1. HER2(ヒト上皮増殖因子受容体2型)に特異的に結合し、HER2シグナル伝達阻害作用と抗体依存性細胞傷害作用を示す。
2. アロマターゼを阻害することで、アンドロゲンからエストロゲンの生成を阻害する。
3. 微小管と結合し、安定化させることで脱重合を阻害する。
4. 子宮内膜のエストロゲン受容体に対して刺激作用を示し、乳腺のエストロゲン受容体においてエストロゲンに対して拮抗作用を示す。
5. GnRH(性腺刺激ホルモン放出ホルモン)受容体に対して刺激作用を示す。

---

## 解答

問254 : 1問255 : 4

## 解説

### 問254

問255 とまとめて解説します。

### 問255

選択肢 1 は妥当な記述です。

タモキシフェンは ER 受容体遮断薬です。※ 乳腺では抗エストロゲン作用をあらわすが、子宮内膜や骨においてはエストロゲン様作用をあらわします。

選択肢 2,3 ですが

フルベストラント（フェソロデックス）は、閉経後乳がんに適応を持つ、筋注で用いられる製剤です。エストロゲン受容体の分解を促進する という作用機序です。

SERD（選択的エストロゲン受容体ダウンレギュレーター）の一種です。アナストロゾール（アリミデックス）はアロマターゼ阻害剤です。閉経後乳がんに用いられます。共に、患者が閉経前なので不適切です。（）

選択肢 4 ですが

トラスツズマブは、HER2 過剰発現が確認された乳がん等に対して用いる抗がん剤です。HER2 (1+) なので、HER2 過剰とはいえません。よって、選択肢 4 は不適切です。

選択肢 5 ですが

ドセタキセルも乳がん用いる抗がん剤です。ただ、ER（エストロゲン受容体）（2+）の結果をふまえると、術後ホルモン療法がより適切と考えられます。

以上より、問254 の正解は 1 です。

問255 の正解は 4 です。